



理数研究部×野外研究部

「森戸海岸磯生物観察実習」

7月21日(日)に神奈川県三浦郡葉山町にある森戸海岸で、磯の生物観察を理数研究部と野外研究部の合同で行いました。実習の目的は以下の通りです。

目的① 磯に生息する生物の採集・同定・分類を行う。

目的② 潮上帯・潮間帯・潮下帯で生息する生物の違いを観察する。

<実習の様子>



<採集した生物の同定と分類結果>

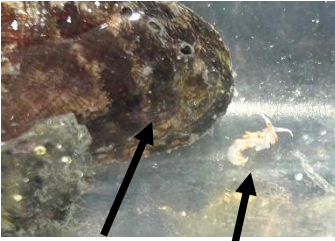
すべてを同定しきれた訳ではありませんが、動物界のほぼすべての門がみつかりました。



採集した生物を報告しあいます



干潮時のタテジマイソギンチャク



左:トコブシ 右:ミノウミウシ



潮だまりにウツボが潜っていました

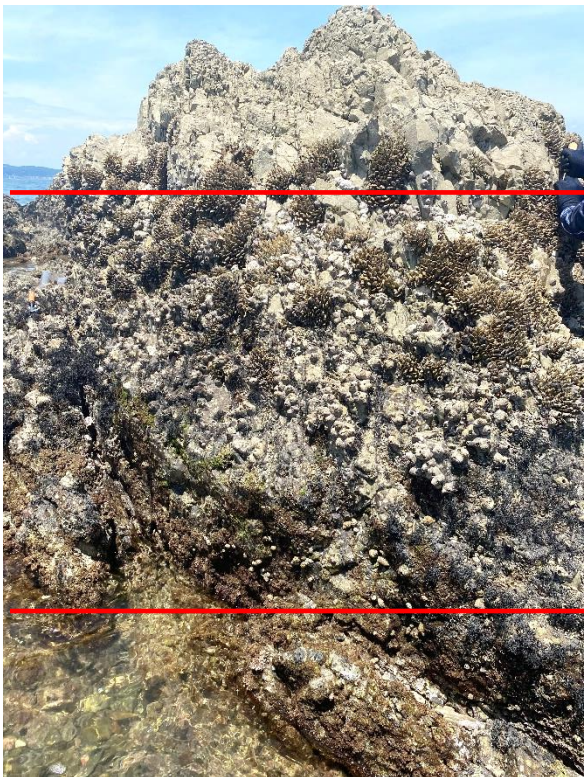
新口動物

脊椎動物門
クモハゼ、キヌバリ、ナベカ、クサフグ、サザナミヤッコ(幼魚)、ハコフグ(幼魚)、ウツボ
棘皮動物門
ムラサキウニ、コシダカウニ、アカウニ、ナマコ、クモヒトデ

旧口動物

三 胚 葉	節足動物門
	クロフジツボ、イワフジツボ、イソスジエビ、カメノテ、イソクズガニ、ホンヤドカリ、ケアシホンヤドカリ、イワガニ、イソガニ、イボイワオウギガニ
	軟体動物門
	ヒザラガイ、ムラサキイガイ、ケガキ、マツバガイ、ウノアシ、トコブシ、バテイラ、インダタミ、ウミニナ、アマオブネガイ、タマキビ、オオヘビガイ、オミナエシダカラ、イボニシ、タツナミガイ、アオウミウシ、ムカデメリベ、ミノウミウシ、ミヤコウミウシ
	環形動物門
二 胚 葉	扁形動物門
	ヒラムシ、ヒモムシ(紐形動物門)
無 胚 葉	刺胞動物門
	ヨロイソギンチャク、タテジマイソギンチャク、ハネガヤ、
無 胚 葉	海綿動物門
	クロイソカイメン、ダイダイイソカイメン、ムラサキカイメン

<磯の生物が多様化した理由をつきとめる>



潮
上
帯

タマキビ
イワフジツボ

潮
間
帯

カメノテ
マツバガイ
クロフジツボ
ヒザラガイ
イボニシ

潮
下
帯

ヒトデ

Q.「なぜ磯では、生物相が豊かなのか。」

それには、いくつかの理由がありそうです。まず1つ目は磯では左の写真のように数十 cm 単位で生物相が変化するという事です。陸では、600mくらい標高が変わらないと、そこに生息する生物相はほとんど変化しません。磯では、狭い範囲で多様な環境の違いが生じるため、それぞれの環境に適応し、多様化したのだと考えられます。他にも理由は考えられると思いますので、是非この夏、磯へ足を運んで五感を使って観察してみてください。



磯の生物観察をすること自体が生まれて初めてだという生徒がほとんどで、図鑑でしか見たことが無い生物を目の当たりにし、感動していた様子でした。また、観察を通じて普段は「貝」や「カニ」などと一括りにしてしまうような生き物が、実はよく観察すると、それぞれに違いがあり、生物多様性の奥深さを感じることが出来たのではないのでしょうか。磯の生態系は研究者の方々にとっても重要な研究対象なので、入試問題としてよく出題されます。もしかしたら、この実習で見たことや考えたことが自分たちが受ける入試でも問われるなんてことがあるかもしれませんね。

(文責:尾方)

